

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0194600011		
法人名	医療法人社団 博愛会		
事業所名	グループホーム かたらい		
所在地	〒080-2473 帯広市西23条南2丁目16番地36 (電話) 0155-38-7770		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月18日	評価確定日	平成22年2月26日

【情報提供票より】(平成21年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人 非常勤 0人 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,500 円	その他の経費(月額)	19,500~25,500 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (98,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	関西病院、大江病院、高山泌尿器科、高木皮膚科、ますち歯科、介護老人福祉施設愛仁園、介護老人保健施設あかしや
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、同一法人が経営している病院や幼稚園と同じ敷地内にある。事業所独自の理念を新たにつくり直し、職員は理念を理解し質の高いケアの実践に取り組んでいる。平成21年10月には町内会に加入し、地域住民の事業所への理解も図られ、野菜をもらったり、事業所の農作業を手伝ってもらいなど交流が深まっている。利用者は明るく、利用者同士の会話も弾んでいる。運営者は職員の質の向上を図るため研修に力を入れており、利用者のケアの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題であった地域との付き合いについては、町内会に加入し地域住民との交流も密になっている。また、同業者と交流することにより、職員のモチベーションを高めている。さらに、災害対策については、火災通報が消防署のほかには警備会社や隣接する病院に連動し、有事の際の協力関係を構築している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価の実施の意義を理解しており、ユニット別に意見を出し合って協議し、管理者が取りまとめ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議には必要に応じて警察、消防署職員が参加している。事業所から自己及び外部評価、事故報告、利用者の生活ぶりなど報告し、参加者の活発な意見や助言を得て記録し、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所には苦情相談窓口があり、意見や苦情などある場合には迅速に対応している。家族の来訪も多いことから、常に話しやすい雰囲気づくりに心がけ、本人や家族が不安なく暮らせるよう努めている。また、市や道にも苦情相談窓口があることを重要事項説明書で知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進委員会等を通じて、平成21年10月に町内会に加入し、地域住民の事業所への理解も図られ、住民から作物をもらったり、事業所の農作業を自ら手伝ったりして地域との交流が深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度は、全職員で話し合い「心をつなぎ合い、支えあい、その人らしい生活を楽しめるよう支援していきます」という事業所独自の理念を新たに作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は新しい理念を見やすい所に掲示し、利用者と職員が心をつなげ合い、支えあい、その人らしい生活を楽しめるように一緒にゆったり暮らせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成21年10月に町内会に加入し事業所の理解も深まり、住民から野菜をもらったり、事業所の農作業を一手に引き受けたりするなど、地域住民との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、自己評価は外部評価の結果を踏まえ、ユニット別に意見を出し合い協議し管理者が取りまとめ作成している。また、外部評価の結果を運営推進会議で報告し、日々のケアのサービスに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民の代表、利用者、家族、地域包括支援センター職員、法人代表、事業所職員の参加で2ヶ月1度開催している。会議では、事業所から自己評価、外部評価、ヒヤリハット、利用者の生活ぶり等の報告をし、参加者からの意見や助言を記録に残し、運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を頻繁に訪問し、運営上の助言などを得ている。また、地域包括支援センター職員も事業所の行事に参加するなど馴染みの関係であり、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している事業所の会報「アットホームニュース」は、大きな文字で見やすく、利用者の生活ぶりを紹介したり利用者一人ひとりの担当職員が健康状況を手書きし、金銭管理の出納帳コピーを同封して家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に苦情相談窓口があり、意見や苦情がある場合は、職員会議で迅速に話し合い、解決や改善に向けて取り組んでいる。他にも市の福祉課、国民健康保険団体連合会にも苦情相談窓口があることを知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に備えて職員を2名増員して対応し、利用者にダメージを与えないようにサービスケアを実践している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に内部や外部研修を実施して職員のモチベーションを高めており、外部研修の旅費は事業所が負担したり勤務調整を行うなどして参加させている。職員は国家資格取得を目指しケアの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流することにより研修の機会が多く、職員のモチベーションを高めることができ、リフレッシュにもつながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては、担当職員が利用予定者宅を訪問し、利用予定者や家族が事業所を見学し雰囲気感じ取り、話を幾度か重ねながら馴染みの関係を構築し利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の関わりの中で、人生の先輩として利用者から学んだり、共に生活を送りながら、支えあう関係を築くよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々暮らしている中で、利用者のふとした言葉を察知して、利用者の思いを家族と話し合い、できる限り実現するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画は、職員会議で担当職員の意見を参考に話し合い、利用者本位の介護計画になるように家族と相談しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直し、担当者、本人、家族、医療関係者の意見を踏まえ、日々の変化を記録に残し作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の平均年齢は約88歳であるが、リフト車を導入したことで、ミニコンサート、かかりつけ医受診、墓参り、花火大会、美容室、大型店での利用者個人の買い物、ドライブなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との協力体制を整えている。また、通院時は基本的に家族が付き添うことになっているが、家族が付き添えない時は職員が付き添い、主治医からの詳しい説明を受け、受診内容についてその都度家族に説明し、日々の健康管理にも役立てている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は運営法人が病院であることから、医療連携マニュアルができており利用者や家族の理解のもと全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の名前の部分はシュレッターをかけている。また、トイレ誘導の際の声かけ、利用者への言葉遣いなど、互いに注意しあい、配慮しながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに設定しているが、食事の時間もその人に合わせている。公文式のドリルの読み書きを希望者だけではあるが、取り入れており、利用者は楽しんで取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを把握しており、季節の食材を取り入れている。夏は焼肉、冬は鍋物などを楽しんでいる。味付けや盛り付け、後片付けなどを無理強いすることなく利用者と職員が楽しみながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう支援しているが、入浴時間などを本人の希望に沿うようにし、タイミングを見計らって入浴を勧めている。入浴を拒否する利用者には、時間をかけて理由を聞き状況に応じて、早朝、就寝前の入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴などを把握した上で、利用者の日々の生活の中から知り得たことを反映させ、公文書の読み書きやカメラ、俳句などを、利用者それぞれの状況に応じて楽しく張り合いのある暮らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ出しや食事の買い物、散歩、ミニコンサート、美術館鑑賞など、本人の希望に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。なお、防犯上の理由から夜間のみ8時から施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回実施している。災害対策については、火災通報が消防署のほかに警備会社や病院に連動し有事の際の協力関係を構築している。また、平成22年中には、スプリンクラー消火設備の設置を計画している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や1日の摂取量の目安を1,200～1,500ccとして水分量を記録し、利用者の好みや習慣、水分摂取状況に応じて、ゼリーなど個別に工夫したメニューで支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチを置き、廊下は広く明るい。居間、台所、食堂がつながっており、調理する音、匂いなど家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく洗面台を取り付けており、思い思いの家具や身のまわりの物を持ち込み、落ち着いた生活ができるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。